

活躍のキーワードは “総合力”

サブプライムローンの破たんを発端に米国金融は危機的状况に陥り、その波は全世界を飲み込んでいます。私は、この事態を招いた一因は米国の基幹産業となった金融事業が金融工学という技術に走りすぎ、“社会のためになる”という「仕事の原点」を忘れたことにあると考えています。“低所得者にもマイホームの夢を”との志が高かったとしても、多くの人が返済不能となる金融商品は社会に役立つとは言えません。また、サブプライムローンが証券化され、他の証券と組み合わせることで転売されたことが問題を深刻化させていますが、そのリスクに対する説明責任は十分に果たされてはいませんでした。この問題を通して、企業の社会的責任の重さと、「技術を磨き、付加価値のある製品を作ることで世界に貢献する技術立国」をめざす日本の基軸の正しさを再認識しました。低炭素社会の実現が目前に迫り、世界が日本の技術に期待している今、日本にはフォローアップが吹いています。日本が新たな産業の発信基地となる大きなチャンスが訪れているのです。

では、日本の中の関西の強みとは何か。最大の強みはものづくりを支える中小企業群でしょう。イノベーションを起こし、それを産業として育てるのに欠かせないインフラです。中小企業の経営者には非常にチャレンジングなものづくりへの情熱をお持ちの方が多く、当社でも企業同士のマッチングなどをお手伝いしています。関西支社でこのような事業に携わっていると、三井物産の15営業本部を大きい視点で見渡すことができ、全本部あるいは複数の本部を組み合わせることでお客様や世の中のためになる力を我々が発揮できることがよくわかります。「総合力をいかに生かすかが当社のビジネスのカギをにぎる」と改めて実感します。

また、今話題の“パネルベイ”に集まる企業群の関西経済への貢献はもちろんのこと、その総合力から生まれる技術革新にも大きな期待を持っています。そし



中村 康二 氏

Koji Nakamura

三井物産 常務執行役員関西支社長

て、私がこれからの関西の一番の強みになると感じているのがエネルギー技術。省エネだけではなく、蓄エネや創エネに関してもそれぞれの分野の雄と言われる企業が関西に集積しており、新エネルギー技術の一大拠点として日本をリードしています。今後、バッテリーと燃料電池のアライアンスなどがうまく行けば、関西が自動車産業の大きな起点となる可能性も十分にあります。関西に必要なのは、すでにある個々の優れた技術を組み合わせて新しい産業を興し、それをグローバルに展開していくこと。そのためには、国際人材の育成・確保が急務です。日本人の育成に加え、関西の大学で勉強している多数の留学生に採用の門戸を広げることも一案です。また、ものづくりを支えるインフラである高速道路やスーパー中核港湾といったネットワーク整備の促進を訴えることなどを関西の各企業や財界が協力して進めていくことも不可欠です。

それに加えて、関西の一番の課題である国内外へのPRにも力を入れるべきです。特に海外では「関西」という言葉自体ほとんど知られていません。関西がまず行うべきは、「関西」のブランド価値を固めてアピールすること。先ほどからお話している中小企業による産業基盤やイノベーションの拠点に加え、京都や奈良に代表される豊富な観光資源、温泉やゴルフ場、おいしい食べ物——。関西ほど魅力的なポイントがコンパクトに集まった地域はありません。「関西」のブランドとは、まさしくこの“総合力”。数ある魅力をいかにトータルコーディネートできるか、関西も総合商社も活躍のキーワードは“総合力”なのです。

談